

事業の促進を圖ることになつた。

緊急食糧増産事業單價補助率新舊比較表

(平均標準單價)

事業名	單價		補助率	
	新	舊	新	舊
暗渠排水	四九・八〇	三八・〇〇	六五	四〇
客土	七七・〇〇	五三・二〇	六・五	四・〇
小用排水	三四・三〇	二六・四〇	六・五	四・〇
開田	四六・〇〇	三〇・〇〇	五・〇	四・〇
農道 (未定)	—	—	五・〇	—

【註】小用排水補助率五割は百町歩以上、四割は百町歩以下

應徴士服務紀律の公布

應徴士服務紀律は、昭和十八年八月十日付官報を以て左の如く公布せられた。

應徴士服務紀律

(昭和十八年八月十日 厚生省令第三十六號)

第一條 國民徵用令第十六條ノ五ノ規定ニ基ク應徴士ノ服務ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 應徴士ハ徵用ノ本義ニ則リ左ノ紀律ヲ遵守スベシ

- 一 應徴士ハ職紀ヲ尙ビ責任ヲ重ンジ全能ヲ奮ヒ誠心職務ニ勉勵スベキコト
- 二 應徴士ハ至誠上長ニ服従シ上下相信倚シ和衷協同互ニ敬愛スベキコト
- 三 應徴士ハ率先挺身部下ノ模範トナリ其ノ信望ヲ

一身ニ聚ムル如キ行動ヲ爲スベキコト

四 應徴士ハ智識技能ノ鍊磨ニ努ムベキコト

五 應徴士ハ氣節ヲ尙ビ廉恥ヲ重ンジ苟モ應徴士タルノ名譽ヲ毀損スルガ如キ所爲アルベカラザルコト

六 應徴士ハ居常簡素ヲ旨トシ質實剛毅ノ氣風ヲ振起シ堅忍不拔ノ精神ヲ涵養スベキコト

七 應徴士ハ保健衛生ニ留意シ體力ノ鍊成ニ努ムベキコト

八 應徴士ハ職場保安ニ留意シ災害豫防其ノ他ノ措置ニ萬全ヲ期スベキコト

九 應徴士ハ機械、器具、材料、製品其ノ他ノ物資ヲ尊重シ苟モ粗略ノ取扱アルベカラザルコト

十 應徴士ハ自己ノ職務ニ關スルト否トヲ問ハズ知悉シタル機密ヲ保持シ防諜上遺憾ナキヲ期スベキコト

第三條 事業主タル應徴士ハ生産遂行ノ全責任ヲ負荷セラレタルモノナルノ自覺ニ徹シ

率先垂範前條ノ紀律ヲ遵守スルノ外常ニ士氣ノ鼓舞ニ努メ明確ナル企圖ノ下ニ適時適切ナル指揮ヲ爲スト共ニ工場事業場總員一家ノ肉親の團結ヲ圖リ以テ戦力増強ノ責ヲ果スベシ

第四條 應徴士前二條ノ紀律ニ違背シ其ノ他應徴士タルノ本分ニ悖ル所爲アリタルトキハ之ヲ懲戒スルコトヲ得

第五條 懲戒ハ左ノ三種トス

一 訓告

二 譴責

三 罷免

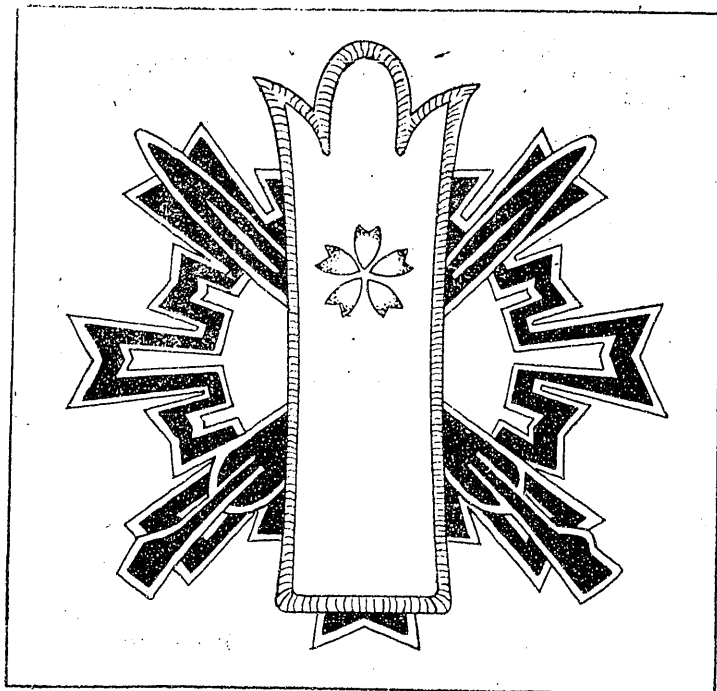
訓告及譴責ハ文書ヲ以テ之ヲ行ヒ罷免ハ徵用解除ニ依リ之ヲ行フ

第六條 罷免事業主タル應徴士ノ懲戒ハ厚生大臣、其ノ他ノ懲戒ハ當該管理工場若ハ指定工場ノ所在地ヲ管轄スル地方長官(東京都ニ在リテハ警視總監)之ヲ行フ

厚生大臣懲戒(訓告ヲ除ク)ヲ行ヒタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第七條 應徴士ハ別表制式ニ依ル徽章ヲ左肋ニ裝著ス

別表制式



被徵用者ニ非ザレバ前項ノ規定ニ依ル徽章ヲ裝著スルコトヲ得ズ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

- 一 本圖ハ實物ノ大サヲ示ス
- 一 地及色 布地國防色
- 一 楯 黒色
- 一 楯縁 金色又ハ黃色
- 一 櫻花 金色又ハ黃色
- 一 鉦 銀色又ハ紅海老茶色
- 一 鉦縁 銀色又ハ雀茶色
- 一 旭光 紅色及白色

船員職業能力申告令中改正の件公布

船員職業能力申告令中改正の件は、昭和十八年九月八日付官報を以て左の如く公布せられた。

船員職業能力申告令中改正ノ件

(昭和十八年九月七日勅令第七百二號)

- 第二條 本令ニ於テ船員トハ左ニ掲グル者ヲ謂フ
- 一 船員法第一條(朝鮮船員令及關東州船員令ニ於テ依ル場合ヲ含ム)ニ規定スル船員
- 二 小形船舶乗組員手帳法第一條第一項ニ規定スル船員
- 三 海技免狀ヲ有スル者
- 四 遞信大臣ノ指定スル船員養成施設ニ於テ其ノ課程ヲ修了シタル者ニシテ修了後三年ヲ經過セザルモノ及該期間内ニ第一號又ハ第二號ノ船員トシテ船舶ニ乗組ミ最後ノ雇止ノ公認若ハ下船ノ證明後又ハ最後ノ雇止契約終了ノ證明若ハ乗組員廢業ノ

彙 彙

證明後三年ヲ經過セザルモノ

五 第一號又ハ第二號ノ船員トシテ一年以上船舶ニ乗組ミタル者ニシテ最後ノ雇止ノ公認若ハ下船ノ證明後三年又ハ最後ノ雇止契約終了ノ證明若ハ乗組員廢業ノ證明後二年ヲ經過セザルモノ

第四條第一項及第二項中「船員手帳」ノ下ニ「又ハ小形船舶乗組員手帳」ヲ加フ

第五條中「船員法第一條ニ規定スル船員ハ」ヲ「第二條第一號及第二號ノ船員ハ」ニ、「船員法第一條ニ規定スル船員」ヲ「同條第一號及第二號ノ船員」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參照) 昭和十四年一月三十日勅令第二十三號船員職業能力申告令抄録

第二條 本令ニ於テ船員トハ左ニ掲グル者ヲ謂フ

(左記略ス)

第四條第一項 船員ハ左ニ掲グル事項ヲ居住地ヲ管轄スル管海官廳ニ申告スベシ

八 船員手帳ヲ有スルトキハ其ノ管海官廳略號及番號

第五條 船員法第一條ニ規定スル船員ハ本令ニ依リ申告ヲ爲スコトヲ要セズ但シ遞信大臣必要アリト認ムルトキハ船員法第一條ニ規定スル船員ノ全部又ハ一部ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ前條第一項ニ掲グル事項ノ一部ヲ申告セシムルコトヲ得

船員職業能力申告令施行規則中改正の件公布

船員職業能力申告令施行規則中改正の件は、昭和十八年九月八日付官報を以て左の如く公布せられた。

船員職業能力申告令施行規則中改正ノ件

第四條中「船員法第一條ニ規定スル船員」ヲ「同令第二條第一號及第二號ノ船員」ニ改ム

第六條及第七條中「第三號」ヲ「第四號」ニ改ム

第八條中「船長ノ退職認證ノ申請又ハ海員ノ雇止公認ノ申請」ヲ「退職ノ認證ノ申請、雇止ノ公認ノ申請、下船ノ證明ノ申請、雇止契約終了ノ證明ノ申請又ハ乗組員廢業ノ證明ノ申請」ニ改ム

第九條中「第二號乃至第四號」ヲ「第三號乃至第五號」ニ、「船員法第一條ニ規定スル船員」ヲ「同條第一號及第二號ノ船員」ニ改ム

第十條第四號中「船員法第一條ニ規定スル船員」ヲ「申告令第二條第一號又ハ第二號ノ船員」ニ改ム

第十一條 削除

第一號書式中 (六)船員手帳交付管海官廳名略號及番號

第一號書式中 (六)船員手帳交付管海官廳名略號及番號

ニ改メ同書式記載心得(西)中「海技免狀を有し船員法第一條に規定する船員以外の者として船舶に乗組中のものは本欄に記載するを要しないこと」ヲ削リ(大)左ノ如ク改ム

(大)乗船履歴

海技免狀を有し申告令第二條第一號の船員であつた者で下船後三年以上を經過したものは最後に乗組んでゐた船舶に付記載すること

其の他の船員は本欄に記載するを要しないこと

三 五

三 五

三 五

三 五

三 五

三 五

三 五